



GLOBAL COMMUNICATIONS

世界を繋ぐ 人に優しいコミュニケーションの創造へ



2019年6月期 決算説明会



(証券コード:7812 東証第二部)



speaker



2019年9月2日

株式会社クレストック
代表取締役社長 高林 彰



東証市場第二部へ

2019年7月26日
東京証券取引所市場第二部へ
市場変更されました
今後も事業の持続的な成長と企業価値の向上に
努めてまいります



1. 会社概要	P. 4
2. 2019年6月期決算実績（連結）	P.13
3. 2020年6月期業績予想（連結）	P.22
4. 中期経営計画2期目レビュー(2018～2020年度)	P.30
5. 株主還元	P.34
Appendix	P.36

1. 会社概要

1. 当社グループ概要
2. 当社グループの事業領域
3. 沿革
4. 展開エリア
5. 拠点別事業領域
6. 当社グループ特徴
 - ・グローバル展開
 - ・品質力・人材力
 - ・顧客基盤と信用力

Global Communications

“世界を繋ぐ 人に優しいコミュニケーションの創造へ”

■ 本 社：静岡県浜松市東区笠井新田町676番地

■ 設 立：1984年9月17日

■ 代表者：高林 彰（2011年6月就任）

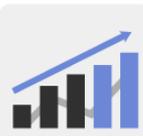
■ 証券コード：7812（東証第二部）

国数・拠点数（連結）



12ヶ国 31 拠点

連結売上高（6月決算）



176億円

2019年6月期連結売上

従業員数（連結）



1,606人

2019年6月30日現在

翻訳実績



98言語

各バリエーション含む

取引実績



1,600社以上

クレストックグループの取引先実績

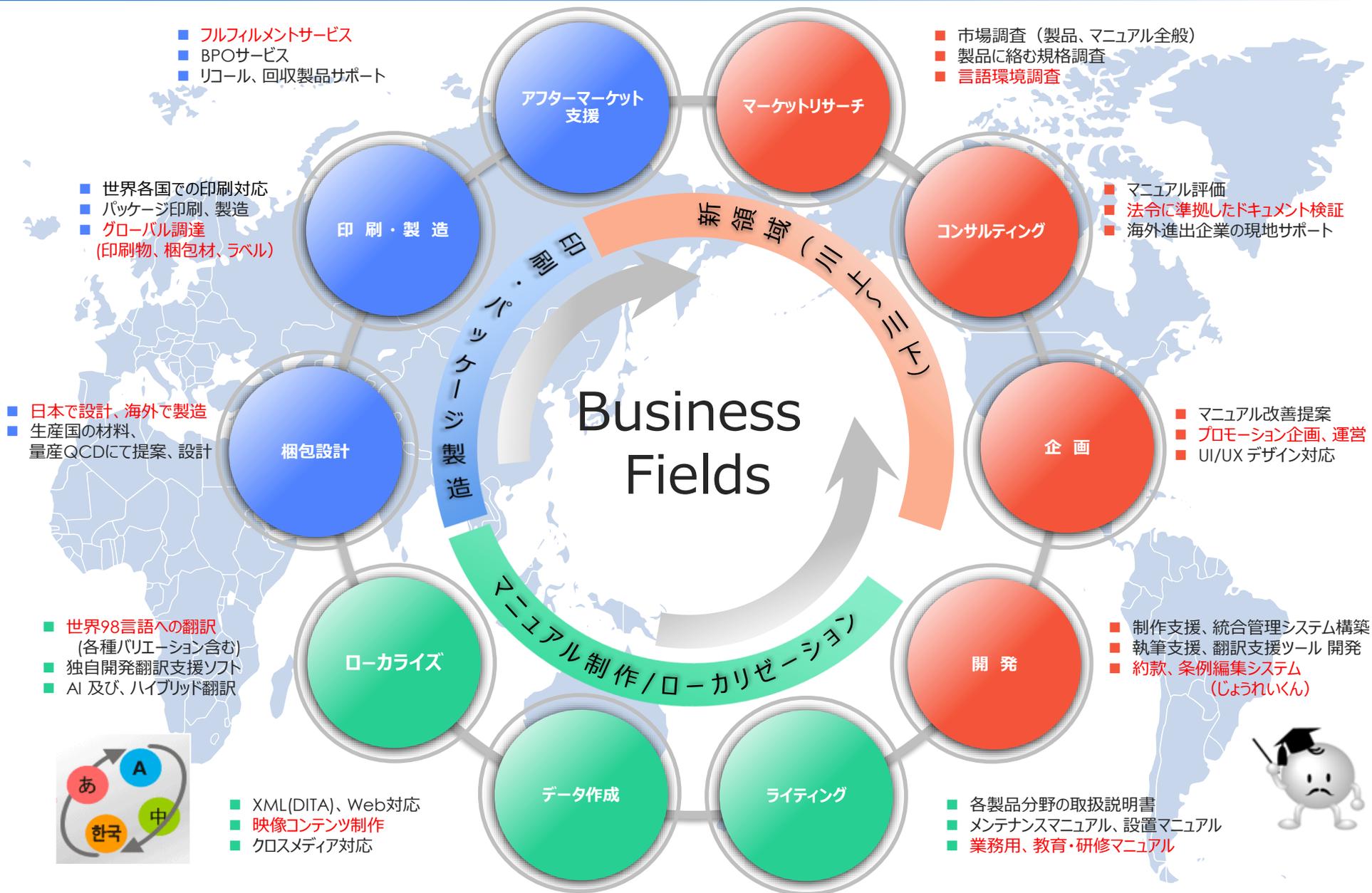
取扱品目



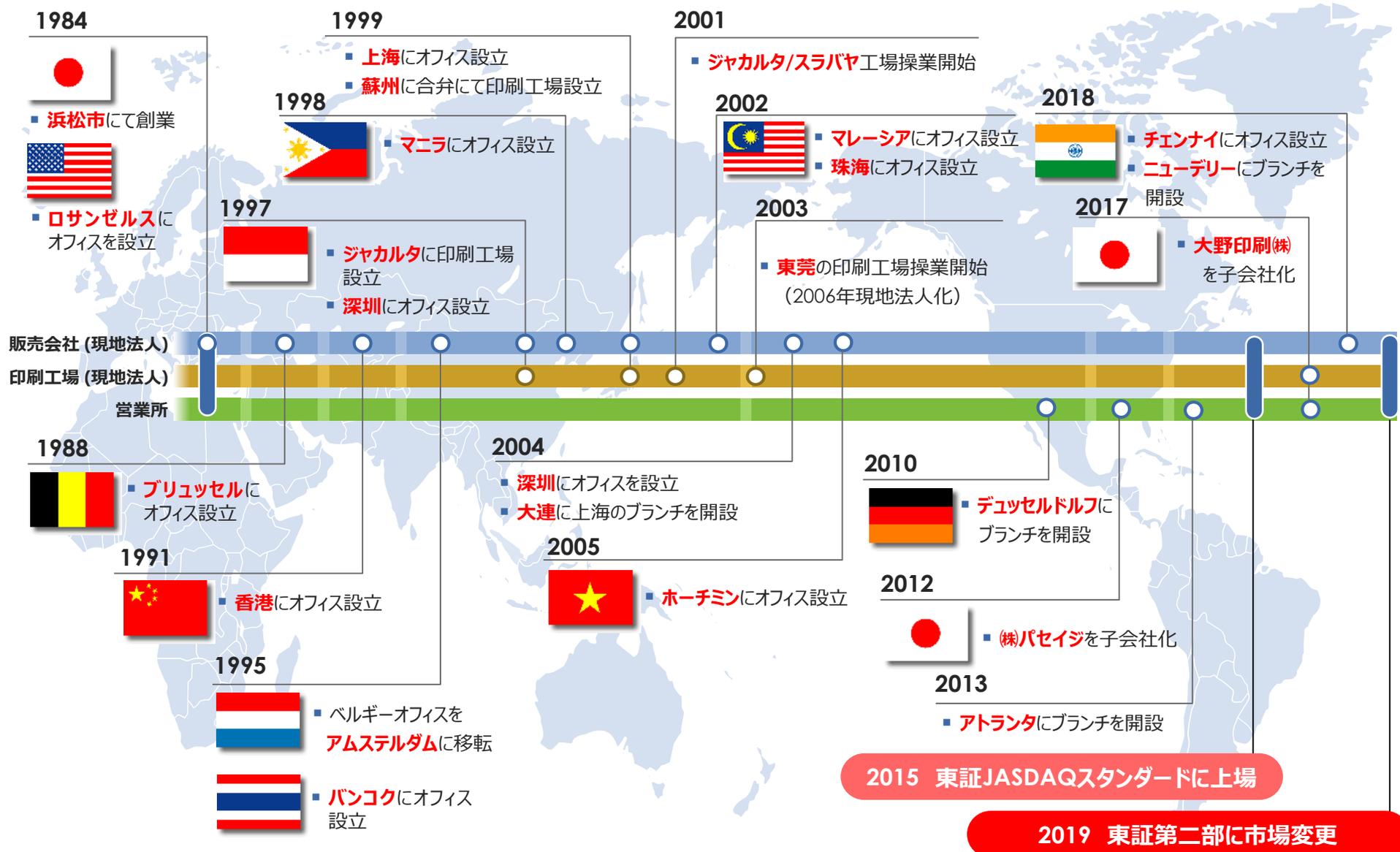
145品目

当社が関わった一般消費者向けの品目数

1-2. 当社グループの事業領域（サービス項目）



1-3. 沿革 (海外進出の歴史)



1-4. 展開エリア



CR Vision 2020

1-5. 拠点別事業領域（サービス項目、機能）

セグメント		サービス項目										拠点機能					
		マーケットリサーチ	コンサルティング	企画	開発	ライティング	データ作成	ローカライズ	梱包設計	印刷・製造	アフターマーケット支援	製造拠点 (印刷加工POD) ※	販売拠点 (倉庫 品質管理)	翻訳拠点	制作拠点 (ライティング)	研究・開発拠点	備考
日本	当社(釜山含む)	○	●	●	●	●	●	●	●	●	○	■	■	■	■	■	※POD印刷/日英言語
	パセイジ		○	●		●	●	○		●			■		■		
	大野印刷		○	●		●	●	○		●		■	■		■		冊子印刷
中国	蘇州									●	○	■					冊子印刷
	上海（大連含む）	●	○	●		●	●	●			○			■	■		販促/中国言語
	華南地区（東莞/他含む）								●	●		■	■				冊子/パッケージ印刷
東南アジア・南アジア	ベトナム（ホーチミン）								○	●		■	■				パッケージ加工
	フィリピン（マニラ）								●	●			■				
	タイ（バンコク）	○	○	●		○	●	●	○	●			■	■	■		アジア言語
	インドネシア（ジャカルタ）								●	●		■					冊子/パッケージ印刷
	インドネシア（スラバヤ）								●	●		■					冊子/パッケージ印刷
	マレーシア（ジョーホールバル）									●			■				
	インド（チェンナイ）	○		○			○	●		●			■				2018年設立
欧米	オランダ（アムステルダム）	●	○			○	●	●		●	●		■	■	■		欧州/中東言語
	アメリカ（ロサンゼルス）	●	○		○	○	●	●		●	●	■	■				※POD印刷

※POD : Print On Demand の略

1-6. 当社グループ特徴 <グローバル展開>

- サプライチェーンの川上から川下まで**一気通貫のサービス**
- 更なる**拠点拡大**で、世界規模でのグローバル体制強化へ



1-6. 当社グループ特徴<品質力・人材力>

- グローバルの中で**高品質なサービス**提供
- 経験豊富な**スペシャリスト**による安定的なサービス提供



ドキュメンテーション (質の高い制作力)

- 豊富な経験と製品知識をもつ **テクニカルライター**による原稿作成
- 家電から自動車、建機や特殊製品まで多くの製品分野に対応

日本マニュアルコンテスト2017 受賞

(一財)テクニカルコミュニケーター協会 (JTCA)

当社が制作に関わったマニュアルが5部門で受賞



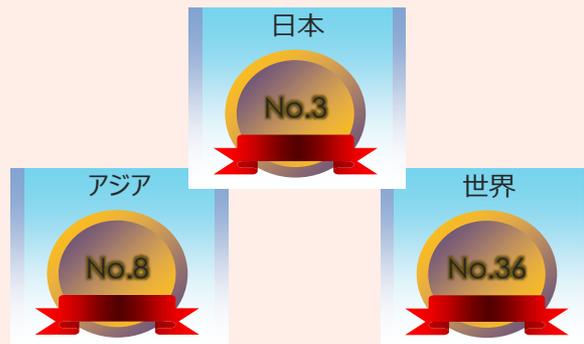
翻訳 (言語のスペシャリスト)

- 翻訳取引額で、**日本で3位**
- 90言語以上への翻訳(各種バリエーション含む)や機械翻訳対応
(2018年累計実績 **98言語**対応)

2019年 CSAランキング

Common Sense Advisory社

総合で世界36位にランクイン



出所：言語サービスプロバイダーランキング2019

パッケージ開発力 (グローバル視点での設計提案)

- 海外素材にて**日本にて設計提案、海外製造**へ
- 輸送(積載)効率を考えた梱包設計でコスト低減へ

2017 日本パッケージコンテスト 受賞

(公社)日本包装技術協会

セイコーエプソン社様製品において「電気・機器包装部門賞」受賞



1-6. 当社グループ特徴 <顧客基盤と信用力>

- お客様との技術資料制作の実績で培われた**信頼関係**により、ビジネスフィールド拡大
- 既存事業に加え、販促などの川上業務やユーザー支援の川下業務へ

輸送機器メーカーでの展開事例 (川上・川下展開)

(販売支援)

営業向け商品説明
ツールからイベント展
台、ブース運営まで



(アフターマーケット)

お客様に代わりディー
ラーへのドキュメントパック
製造



(アフターマーケット)

ECサイト構築・運営から
フルフィルメント事業ま
で



信用力

- 長年の技術資料制作の実績から
生まれた強いお客様との**信頼関係**

安心感

- 世界中どこでも日本基準をベース
とした高い**品質保証**

対応力

- 競合他社にはないグローバル体制
にて**一気通貫のサービス**

電器メーカーでの展開事例 (既存事業展開)

(コンサルティング)

マニュアルの分析・評価から海外の法規アドバイスまで



マニュアル



IEC 82079-1
適合マニュアル

(新メディア対応)

Web、動画などの電
子マニュアル展開から
ユーザーFAQ対応ま
で



(商社機能)

製品梱包のノウハウから
コスト低減の新梱包
資材の提案と調達



梱包資材 (フィルピン)

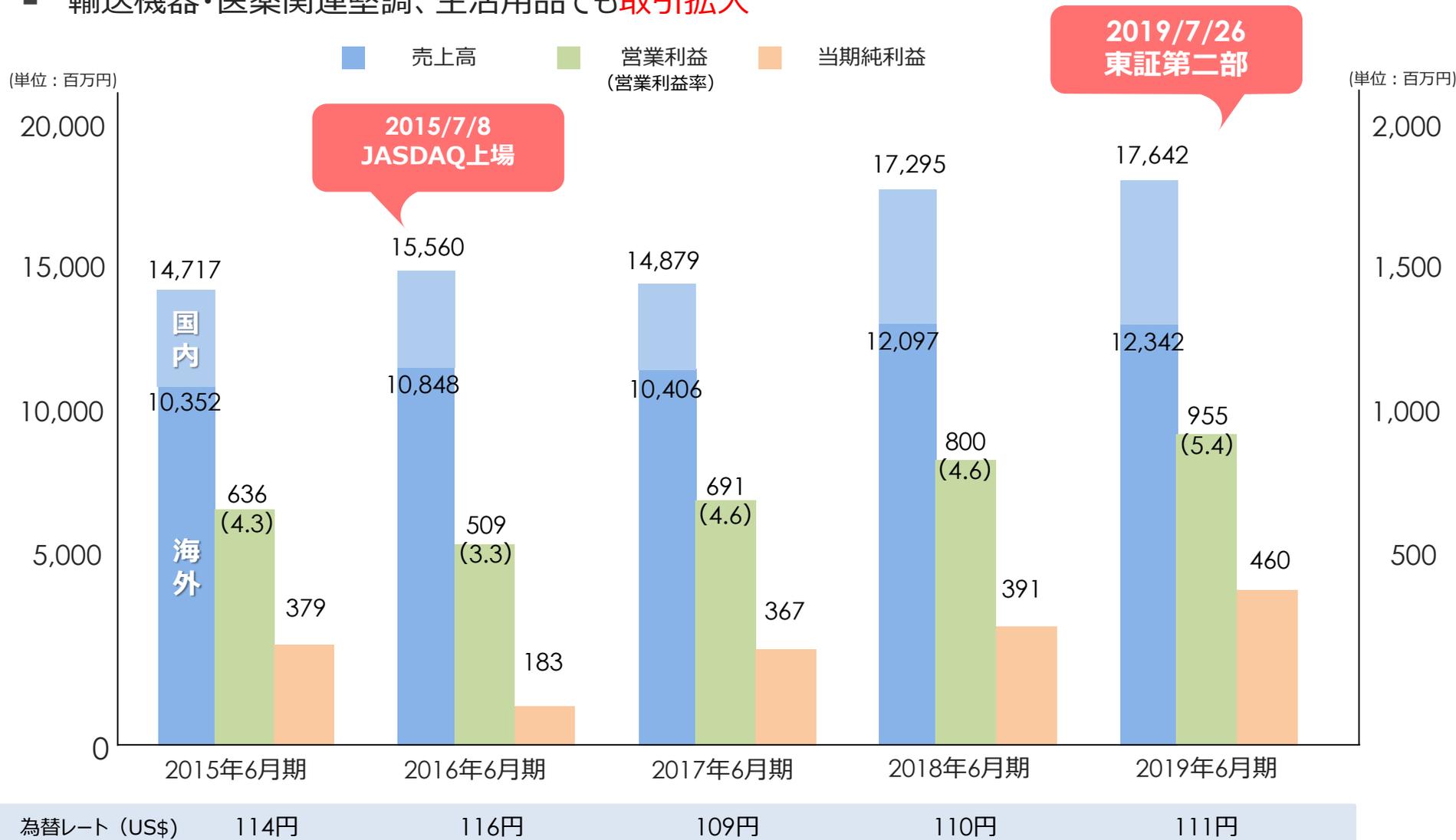
2.2019年6月期

決算実績 (連結)

1. 業績推移
2. 営業利益増減要因
3. 損益計算書(P/L)
4. セグメント別売上高
5. セグメント別営業利益
6. 販売先別売上高
7. 貸借対照表 (B/S)
8. キャッシュ・フロー計算書

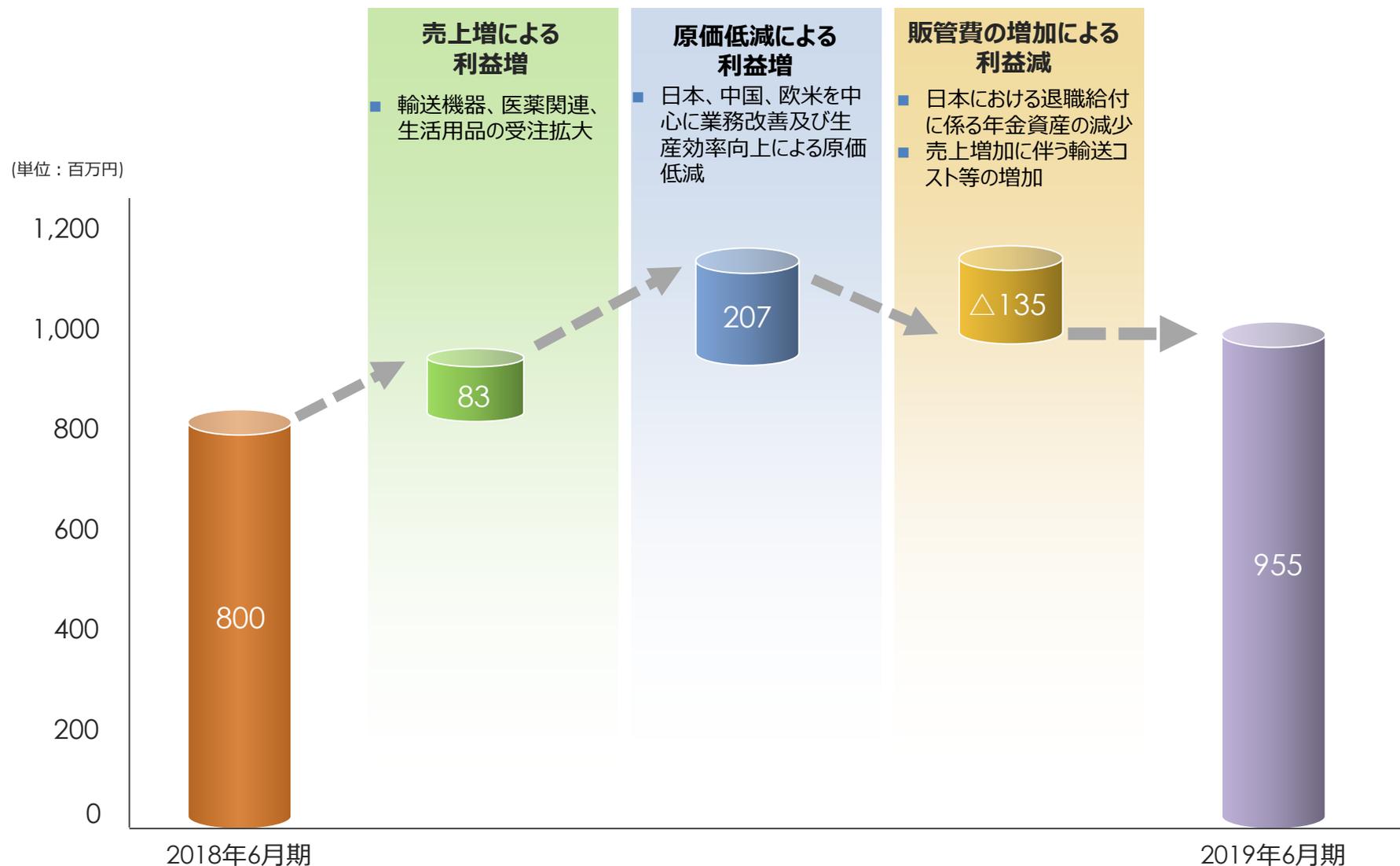
2-1. 業績推移

- 売上高・利益額・利益率とも**過去最高**を更新
- 輸送機器・医薬関連堅調、生活用品でも**取引拡大**



2-2. 営業利益増減要因

- 売上増による利益の増加及び原価低減による利益増が、販管費の増加を上回り増益



2-3. 損益計算書 (P/L)

(単位：百万円、%)

	実績				
	2018年6月期		2019年6月期		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)
売上高	17,295	100.0%	17,642	100.0%	346 (2.0%)
売上総利益	4,172	24.1%	4,462	25.3%	290 (7.0%)
販売費及び一般管理費	3,371	19.5%	3,507	19.9%	135 (4.0%)
営業利益	800	4.6%	955	5.4%	154 (19.3%)
経常利益	755	4.4%	851	4.8%	95 (12.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	391	2.3%	460	2.6%	68 (17.5%)
減価償却費	442	—	445	—	2 (0.6%)
設備投資額	738	—	721	—	△16(△2.3%)

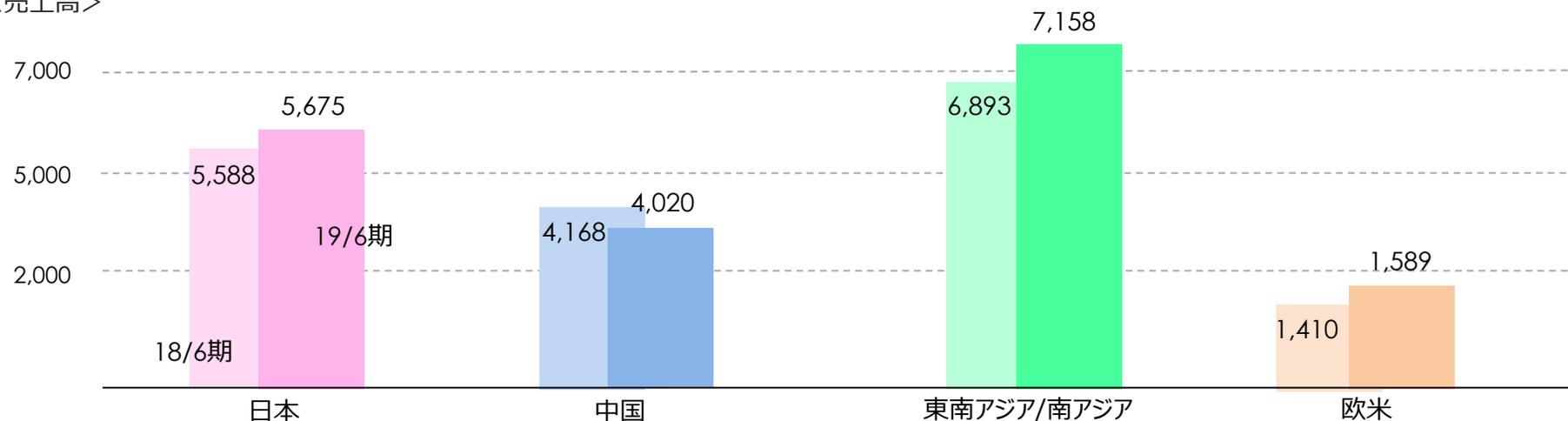
(注) 換算レート (期中平均レート) は、2018年6月期は1ドル110円、2019年6月期は1ドル111円となります。

2-4. セグメント別売上高

(単位：百万円、%)

	実績					コメント
	2018年6月期		2019年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
売上高						
日本	5,588	30.9%	5,675	30.8%	87 (1.6%)	■ 電器関係全般に 取引好調
中国	4,168	23.1%	4,020	21.8%	△148 (△3.6%)	■ 蘇州工場における医薬品関係 取引拡大 ■ 電器関係 取引減
東南アジア/ 南アジア	6,893	38.2%	7,158	38.8%	264 (3.8%)	■ フィリピンにおける情報機器関係 取引拡大 ■ インドネシア全般に 取引拡大
欧米	1,410	7.8%	1,589	8.6%	178 (12.6%)	■ 欧米共に輸送機器関係 取引好調

<売上高>



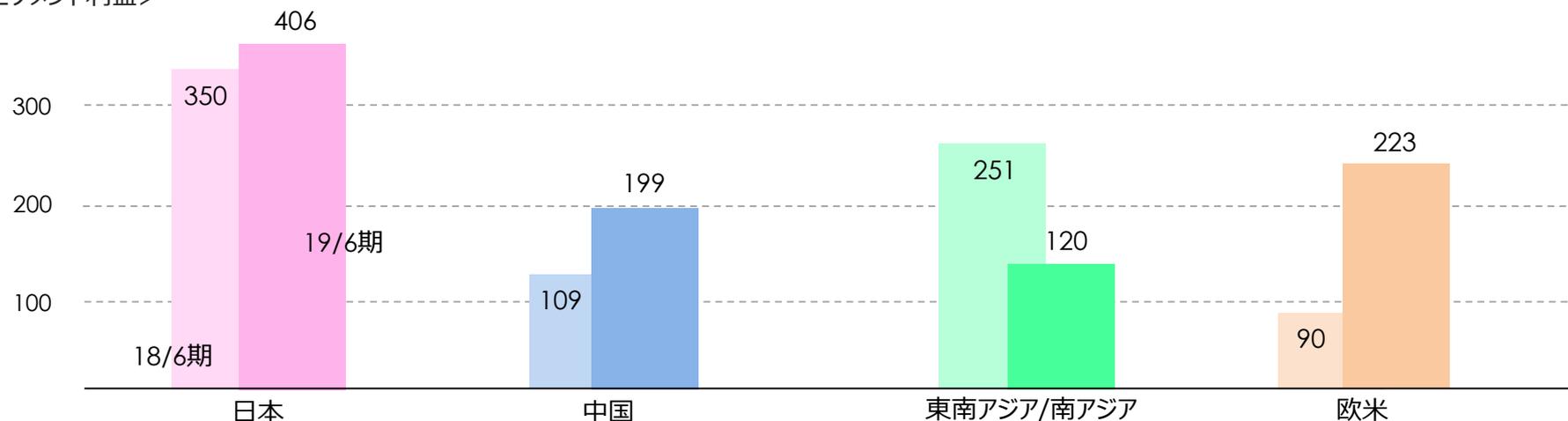
(注) セグメント間取引消去調整前

2-5. セグメント別営業利益

(単位：百万円、%)

	実績					コメント
	2018年6月期		2019年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
セグメント利益 (営業利益)						
日本	350	43.7%	406	42.8%	55 (15.8%)	■ 売上増加及び、原価低減による増益
中国	109	13.6%	199	21.0%	90 (82.6%)	■ 蘇州工場 売上増加による増益 ■ 東莞工場 原価低減による改善
東南アジア/ 南アジア	251	31.4%	120	12.7%	△131 (△52.2%)	■ インドネシア 原価低減による改善 ■ フィリピン 棚卸評価損の計上
欧米	90	11.3%	223	23.5%	133 (147.4%)	■ 売上増加と原価低減

<セグメント利益>



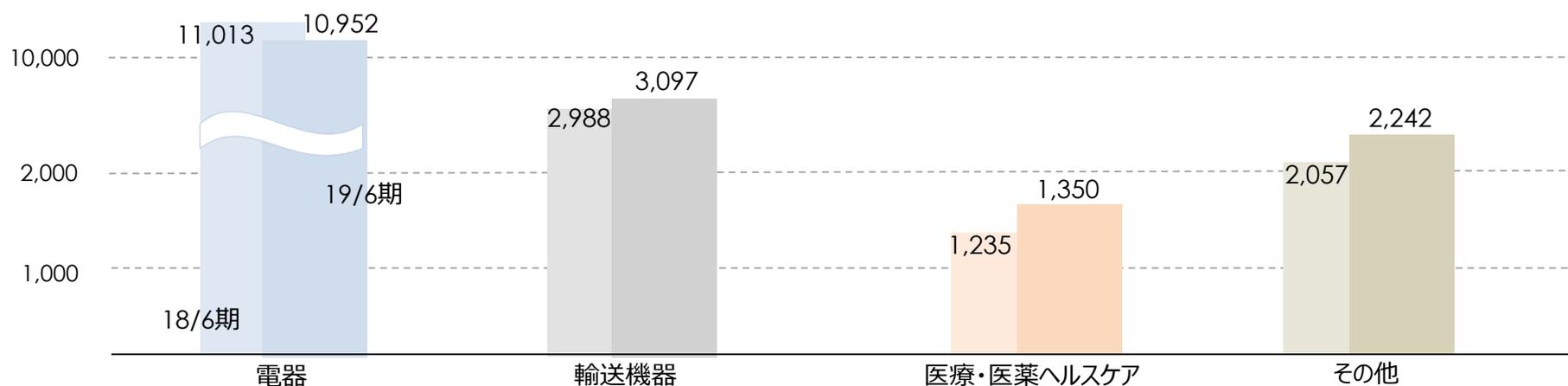
(注) セグメント間取引消去調整前

2-6. 販売先別売上高

(単位：百万円、%)

	実績					コメント
	2018年6月期		2019年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
電器 (デジタル製品・情報機器・家電)	11,013	63.7%	10,952	62.1%	△61 (△0.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ フィリピンにおける情報機器 取引拡大 ■ 中国における電器関係 取引減少
輸送機器	2,988	17.3%	3,097	17.6%	108 (3.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国における輸送機器関係 取引拡大
医療・医薬ヘルスケア	1,235	7.1%	1,350	7.7%	114 (9.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 蘇州工場における医薬品関係 取引拡大
その他	2,057	11.9%	2,242	12.7%	185 (9.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東南アジアにおける生活用品 取引堅調

<販売先別売上>



(注) 上記実績数値は未監査

2-7. 貸借対照表 (B/S)

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減額	コメント
流動資産	8,740	8,040	△700	
現金及び預金	3,251	2,643	△607	■ 借入金の返済に伴う減少
受取手形及び売掛金	3,276	3,190	△85	
たな卸資産	1,782	1,735	△46	
固定資産	4,207	4,363	155	
有形固定資産	3,026	3,262	235	■ 中国及びインドネシアでの設備投資
無形固定資産	182	163	△19	
投資その他の資産	999	937	△61	
資産合計	12,948	12,403	△544	
負債合計	8,738	7,988	△750	
(有利子負債残高)	6,094	5,574	△520	■ 借入金の返済による減少
純資産合計	4,209	4,415	205	
負債純資産合計	12,948	12,403	△544	

(注1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正等の適用により、2018年6月期についても繰延税金資産を投資その他の資産へと組替えております。

(注2) 換算レート(期末日レート)は、2018年6月期は1ドル110円、2019年6月期は1ドル107円となります。

2-8. キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	822	901	79	
投資活動による キャッシュ・フロー	△751	△125	625	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国及びインドネシアでの設備投資 ■ 定期預金の払い戻し
財務活動による キャッシュ・フロー	△176	△699	△523	<ul style="list-style-type: none"> ■ 借入金の減少に伴うもの
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△1	△62	△61	
現金及び現金同等物 の増減額	△107	13	121	
現金及び現金同等物 の期首残高	2,641	2,559	△82	
株式交換に伴う現金及び 現金同等物の増加額	25	—	△25	
現金及び現金同等物 の期末残高	2,559	2,572	13	

3.2020年6月期業績予想 (連結)

1. 中期経営計画 > 経営数値目標
2. 業績推移
3. 営業利益増減要因
4. 損益計算書(P/L)
5. セグメント別売上高
6. セグメント別営業利益
7. 販売先別売上高

3-1. 中期経営計画 > 経営数値目標

- 中期経営数値目標 **最終年度の見直し**
- **外部環境の変化**（景気減速、消費停滞等）を盛り込む

2020年目標

売上高 **180**
億円

営業利益 **10.8**
億円

営業利益率 **6.0**
%

※為替レート1ドル109円で想定

2020年予想

売上高 **180.1**
億円

営業利益 **10.0**
億円

営業利益率 **5.6**
%

※為替レート1ドル108円で想定

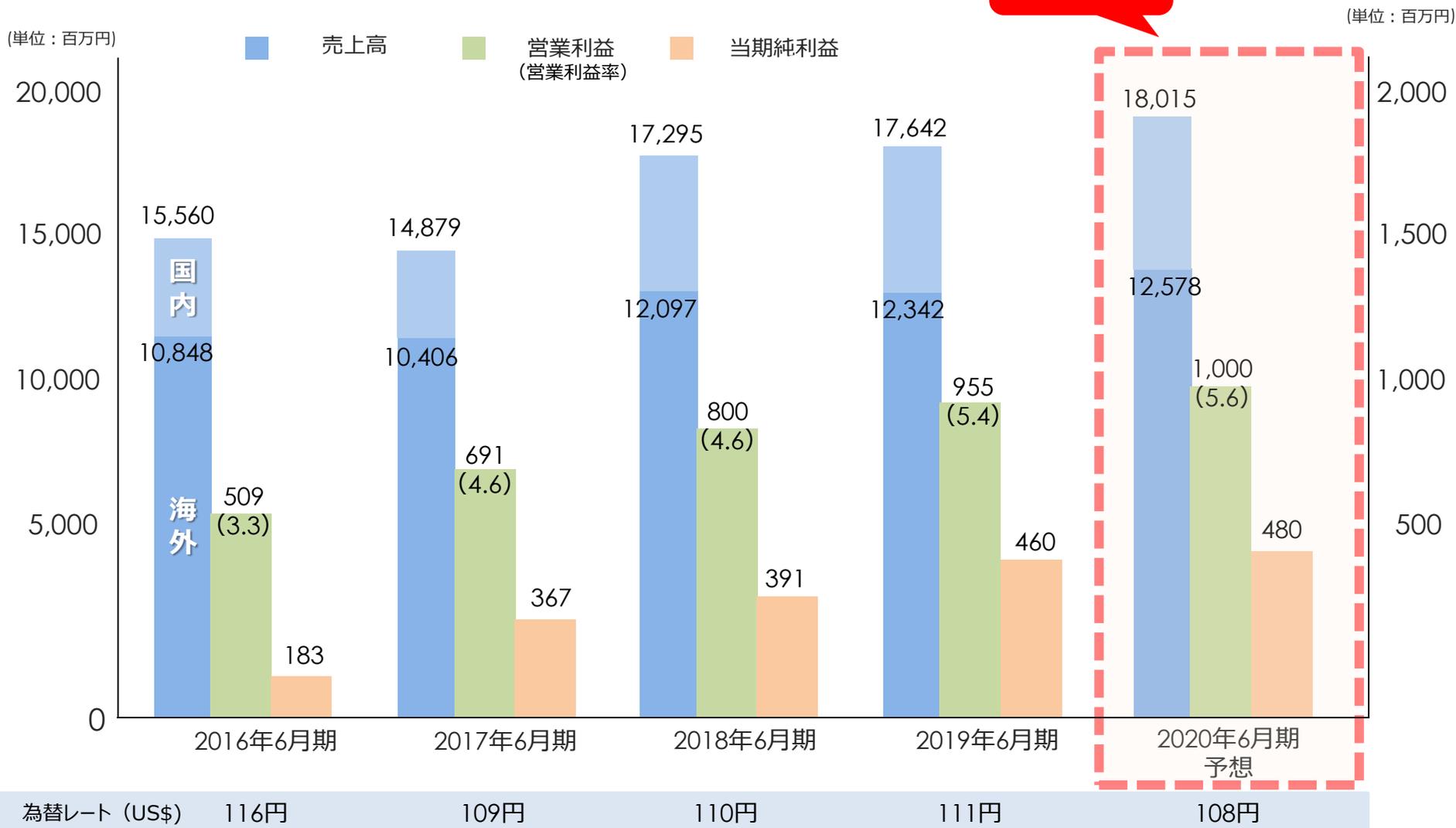
※2019年8月9日開示の

「中期経営計画の数値目標修正に関するお知らせ」参照

3-2. 業績推移

- 売上高 前期比**2.1%UP** 営業利益 前期比**4.7%UP**
- 売上高・利益額・利益率とも**過去最高の着地見込み**

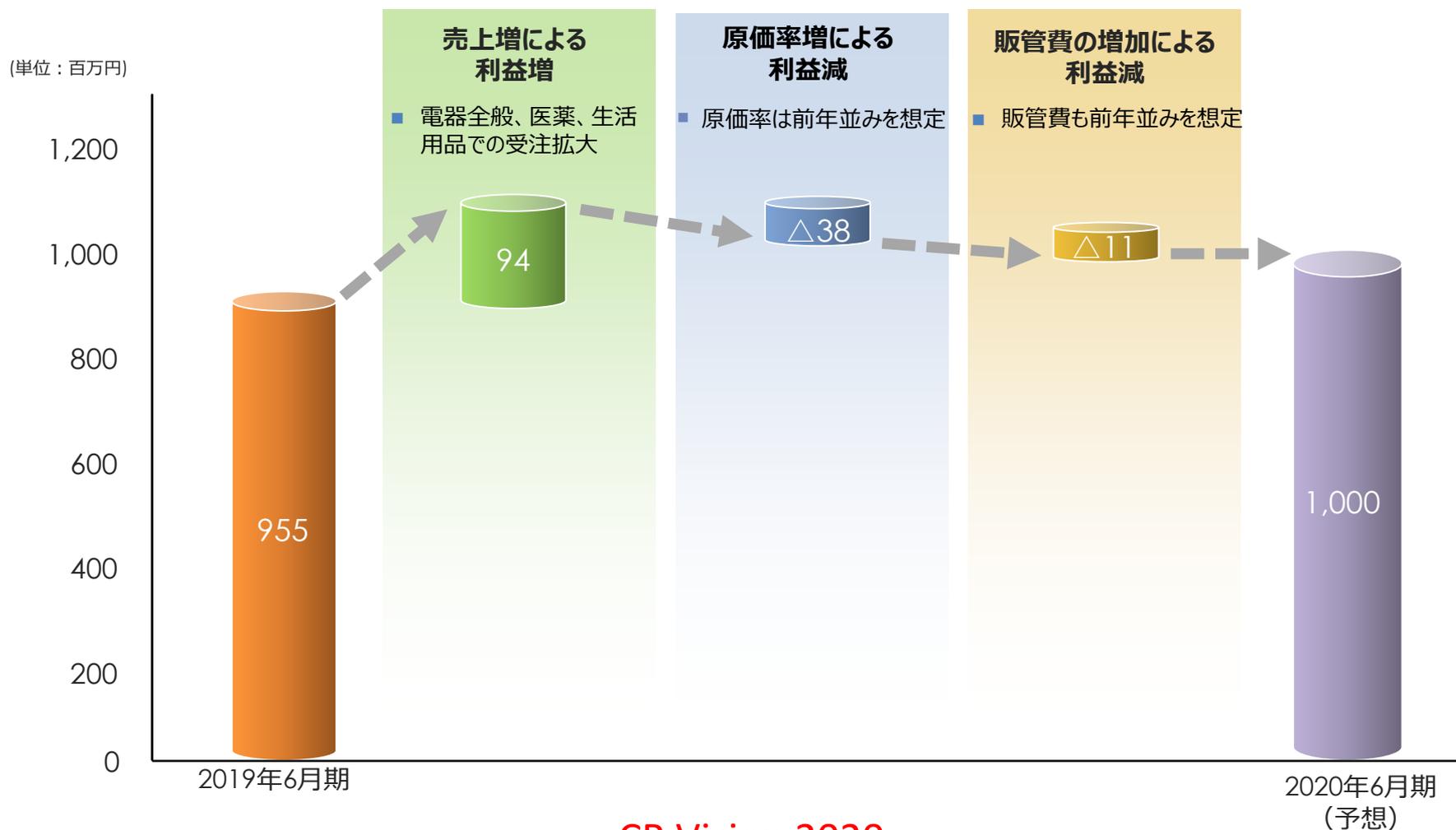
中期経営数値
最終年度予想



CR Vision 2020

3-3. 営業利益増減要因

- 売上増による利益の増加が、原価率増による利益減及び販管費の増加を上回り増益



3-4. 損益計算書 (P/L)

(単位：百万円、%)

	実績			予想		
	2019年6月期			2020年6月期		
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減額 (率)
売上高	17,642	100.0%	2.0%	18,015	100.0%	372 (2.1%)
売上総利益	4,462	25.3%	7.0%	4,519	25.1%	56 (1.3%)
販売費及び一般管理費	3,507	19.9%	4.0%	3,518	19.5%	11 (0.3%)
営業利益	955	5.4%	19.3%	1,000	5.6%	45 (4.7%)
経常利益	851	4.8%	12.7%	902	5.0%	51 (6.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	460	2.6%	17.5%	480	2.7%	20 (4.4%)
減価償却費	445	—	0.6%	474	—	28 (6.4%)
設備投資額	721	—	△2.3%	450	—	△271(△37.6%)

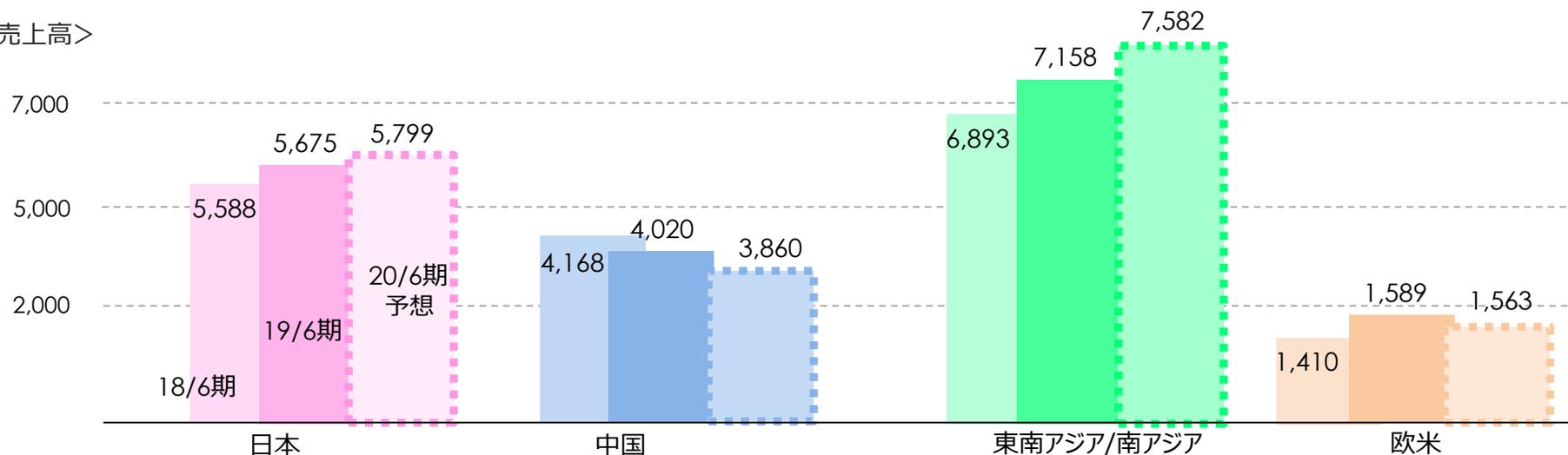
(注) 2020年6月期の想定レート (期中平均レート) は1ドル108円を想定しております。(2019年6月期は111円)

3-5. セグメント別売上高

(単位：百万円、%)

	実績		予想			コメント
	2019年6月期		2020年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
売上高						
日本	5,675	30.8%	5,799	30.8%	123 (2.2%)	■ 輸送機器関係中心に全体増加
中国	4,020	21.8%	3,860	20.5%	△159 (△4.0%)	■ 電器中心に取引減少 ■ 為替による影響あり
東南アジア/ 南アジア	7,158	38.8%	7,582	40.3%	423 (5.9%)	■ 情報機器での受注拡大
欧米	1,589	8.6%	1,563	8.3%	△25 (△1.6%)	■ 前年並みだが為替影響あり

<売上高>



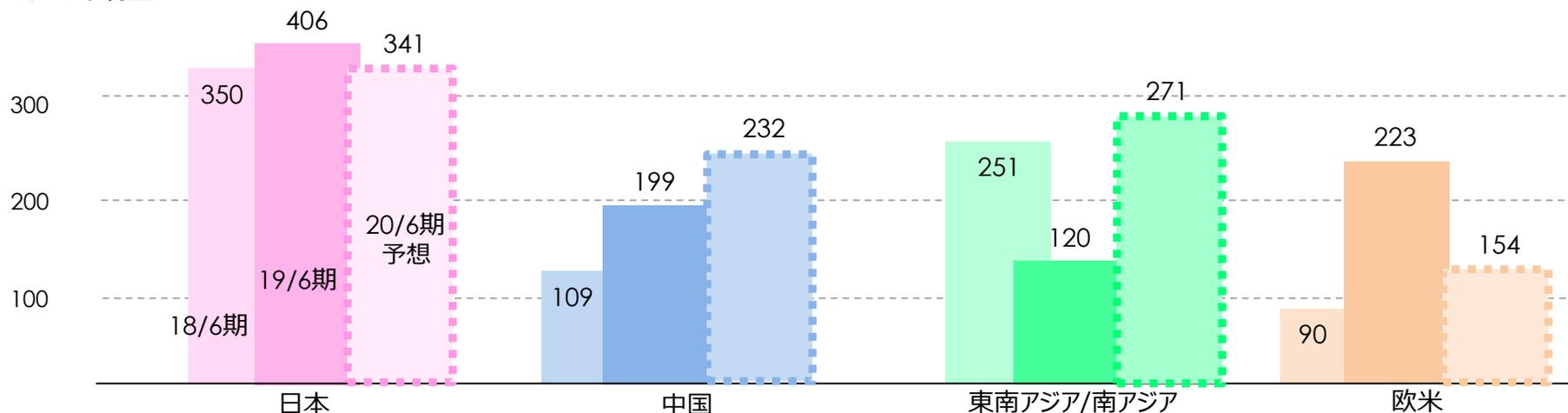
(注) セグメント間取引消去調整前

3-6. セグメント別営業利益

(単位：百万円、%)

	実績		予想			コメント
	2019年6月期		2020年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
セグメント利益 (営業利益)						
日本	406	42.8%	341	34.1%	△65 (△16.1%)	■ 大口案件減少により利益減
中国	199	21.0%	232	23.3%	33 (16.8%)	■ 東莞工場 さらなる原価改善
東南アジア/ 南アジア	120	12.7%	271	27.2%	151 (126.2%)	■ 前期は棚卸評価損あり (フィリピン) ■ インドネシア 原価改善
欧米	223	23.5%	154	15.4%	△69 (△31.1%)	■ 翻訳事業投資による利益減

<セグメント利益>



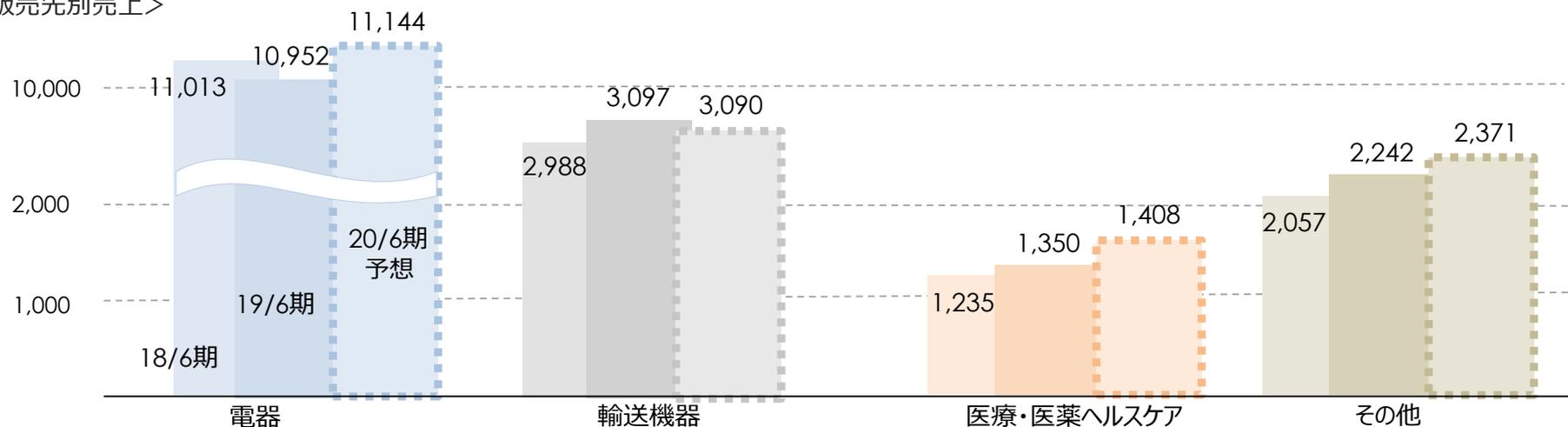
(注) セグメント間取引消去調整前

3-7. 販売先別売上高

(単位：百万円、%)

	実績		予想			コメント
	2019年6月期		2020年6月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額 (率)	
電器 (デジタル製品・情報機器・一般家電)	10,952	62.1%	11,144	61.9%	192 (1.8%)	■ 情報機器での受注拡大
輸送機器	3,097	17.6%	3,090	17.2%	△6 (△0.2%)	■ 外部環境変化による停滞
医療・医薬ヘルスケア	1,350	7.7%	1,408	7.8%	58 (4.3%)	■ 東南アジアにおける受注の拡大
その他	2,242	12.7%	2,371	13.2%	128 (5.7%)	■ 生活用品での受注拡大

<販売先別売上>



(注) 上記実績数値は未監査

4. 中期経営計画 2期目レビュー (2018~2020年度)

1. 中期経営計画 (3カ年)
2. 経営重点戦略
 - ・事業強化戦略
 - ・体制強化戦略

CR Vision 2020

基本方針

“成長に向けた企業基盤の確立へ”

経営数値目標

売上高	180.1 億円
営業利益	10.0 億円
営業利益率	5.6 %

経営重点戦略

事業強化
戦略

体制強化
戦略

事業強化戦略

骨子

■ グローバルネットワークの強化
(事業分野、事業領域拡大)

■ 川上・川下業務の
強化及び、深化
(事業領域拡大、既存事業の深化)

■ 創造性の高い事業への転換
(事業分野、事業領域拡大、
既存事業の深化)

進捗状況

- インド子会社設立による
ネットワーク強化
- 輸送機器関連の強化による
取引拡大
- 新メディア(映像、AR等)対応で
領域拡大
- “対話型AI”連携で事業の深化
- M&Aや企業連携による
新事業立ち上げへ

体制強化戦略

骨子

■ コーポレート・ガバナンスの強化
(企業価値を高め、グローバル企業へ)

■ 人材育成とES[※]向上
(グローバルな世界で活躍できる人材育成)
※ES : Employee Satisfaction

■ 業務改善と生産性向上
(拠点体制の最適化へ)

進捗状況

- 東証二部への市場変更達成
(経営基盤強化)
- 広報活動によるブランド力強化
- 多様化に対応した
新制度(人事、報酬)の導入
- 工場改革や最適化への
遅延により利益拡大に影響
- 求人市場の採用難による
一部業務への影響

5. 株主還元

配当方針

- 当社は、株主への利益還元を経営の最重要課題のひとつとして重視するとともに、将来にわたる企業の安定と発展のために内部留保を充実し、株主の皆様に対する利益を長期的に確保することが重要であると考えております。
- 株式上場以降、期末と中間の年2回の配当実施を基本方針としつつ、配当の金額につきましては、**配当性向30%以上を目標に**、安定性と成長性のバランスを重視し、経営環境の変化に対応するための持続的な投資に必要な内部留保、中長期的な業績見通し及び資金状況等を総合的に勘案して業績連動型の配当を実施していく方針であります。

配当金

	第2四半期末	期末	合計	配当性向
2020年6月期（予想）	24.0円	24.0円	48.0円	30.6%
2019年6月期（実績）	23.0円	23.0円	46.0円	30.7%
2018年6月期（実績）	17.0円	22.0円	39.0円	30.6%
2017年6月期（実績）	13.0円	24.0円	37.0円	30.6%

Appendix

成長戦略概要

成長戦略トピックス

- ・事業分野の拡大
- ・事業領域の拡大
- ・既存事業の深化

ー川上から川下へー

品質を追求した新たな事業分野拡大

- 医薬品・医療機器
- ヘルスケア製品
- 生活用品
- 産業機器

事業分野
拡大

経営資源を生かした事業領域拡大

- コンサルティング
- 販売支援サービス
- アフターサービス
- BPOサービス

事業領域
拡大

ノウハウ・人的資産による事業の深掘り

- 新メディアサービス
- AI化による業務支援
- 翻訳サービス(特殊分野、NMT等)
- 梱包資材開発

既存事業
深化

既存事業

国内: ドキュメント制作
海外: 印刷、製造

- 高度な品質を要求される医薬品業界（海外メーカー）との取引拡大
- 一般家電から生活用品、ヘルスケア用品など消費材業界へ

医薬品業界へ



米系大手製薬会社との取引（インドネシア）

医薬品用パッケージと能書 製造拡大

中国から日本の製薬工場へ（蘇州）

蘇州工場、能書製造の体制確立、日本へ輸出

設備増強で取引拡大（蘇州）

欧米系・中国系の主要ジェネリック製薬会社と取引拡大

生活用品・ヘルスケア用品業界へ



医療機器・生活用品系の拡大（ベトナム）

高い品質管理体制により医療系など新たな取引拡大へ

大手生活用品企業との取引拡大（インドネシア）

グローバルサポート体制により生活家電分野に展開

ヘルスケア・医療系用品分野へ（インドネシア）

設備増強で、美容品・衛生用品など新分野拡大へ

- 市場調査から、製品の販売拡大のための販促支援事業へ（川上）
- 販売後のユーザーへ、AIによる情報支援からロジスティクスサービスまで（川下）

マーケットリサーチ／コンサルティング

国際規格情報サポート

- CEマーキング、GBなど各国の法令、指令などの企画調査



- ・マニュアルへの法規記載のアドバイス
- ・リスクアセスメントによる安全表記アドバイス
- ・マニュアルの分析・評価及び改善提案

マーケティングサポート

販売促進プロモーション

- 展示会、イベントなどの企画運営からプロモーション支援まで



イベントの企画運営



カタログ、ポスター類

アフターマーケット支援

「ドキュメント × 対話型AI」で新サービス

- CS(顧客満足度)向上に貢献する革新的なソリューションを



BPO (Business Process Outsourcing) サービス

ロジスティクスサービス

- 市場の販売に合わせたドキュメントパック製造、顧客納品



ロジスティクスサービス



アッセンブリーライン

成長戦略トピックス > 既存事業の深化

- 既存事業でのノウハウ・人的資産を更に進化させ、事業を更に深化
- 多様化したメディア、デバイスの活用で新たな支援ソリューションへ



スマートグラス用配信アプリ「PORECT」販売



体験型コンテンツ配信サービス



- 2017年9月アプリのパッケージ販売を開始
- 企業PRや観光、イベントなどで**グループAR**を導入
- 新コンテンツ配信サービス「UX SERVICES」を展開
- 企業広報、工場ツアー、展示会場などで新しい感動体験を

ウェアラブル・ITで現場/教育ソリューション



- **ハンズフリー**で作業の効率化
- 音声認識ソフトにてデータオペレーションを実現
- 遠隔支援ソフトにて効率化へ
- 「現場」+「座学」の同時研修実現

文書作成ソリューション（文書生成支援アプリ）



YAMATO・UTA 「やまと歌」

文書比較/日本語精査
改め文生成モジュール



KASEN

改め文生成モジュール“歌仙”



UTAYOMI

文書比較モジュール“歌詠”



UGUHI SU

日本語精査モジュール“鶯”

新メディア対応（各種最新端末への展開）



- **3DCADデータ**で理解度向上
- 組み込みマニュアル対応
- **動画マニュアル**でコール減へ
- データの各種携帯端末対応 (Responsibleへ)

世界を繋ぐ 人に優しいコミュニケーションの創造へ

「情報創造企業」として、我々は世界の人とヒト、
人とモノを繋ぐコミュニケーションを創造することで、伝えたい情報にカタチを与え、
世界中の人々の心に感動と喜びを創出し、
楽しく安心して暮らせる社会の構築を目指します。

IRに関するお問い合わせ先

株式会社クレストック 管理部 人事総務課

電話：053-435-3553

e-mail：ir-info@crestec.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。